


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・学校名【茨城県】

1 実践テーマ	【I II III IV V】
2 実施対象者	五霞町立五霞中学校 全校生徒（男子 93名、女子 90名、計 183名） 第1学年（男子 25名、女子 29名、計 54名） 第2学年（男子 28名、女子 40名、計 68名） 第3学年（男子 40名、女子 21名、計 61名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育） ② 行事名（オリンピック・パラリンピック教育講演会） ③ その他（パラスポーツ体験授業） (2) 地域における活動 ① イベント名（茨城国体プレプレ大会ボランティア） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育を通して、生徒一人一人がスポーツを「する」「みる」「ささえる」などの多様ななかかわりをする中で、生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るための必要性や楽しさについての理解を深める。
5 取組内容	(1) オリンピック・パラリンピック教育講演会（I II IV） 「グローバルマナーとおもてなしの心」についての講演会を実施した。 ① 期日 平成29年9月7日（木）5・6校時 ② 場所 五霞町立五霞中学校体育館 ③ 講師 江上いずみ先生（筑波大学大学院客員教授） ④ 内容 (ア)日本の文化「おもてなしの心」とは何か (イ)オリンピック・パラリンピックにおけるボランティアの必要性と実態 (ウ)おもてなしの心を表すときに大切な「好感度を高める5原則」 (エ)「おもてなしの心」の表し方は一律ではなく相手によって変わるものであること (オ)言葉がけの大切さとコミュニケーション能力を高める方法 (カ)グローバルマナーとしての挨拶、握手  (2) 茨城国体プレプレ大会ボランティア（II V） 代表生徒19名が参加した。五霞町長をはじめ国体運営に携わる関係者とともにウォーキングコースを歩き、気付いたことを記録しながら意見交換を行った。

- ① 期日 平成29年9月24日（日）
- ② 場所 五霞町防災ステーション  
（スタート・ゴール地点）
- (3) パラスポーツ体験授業（ⅡⅢⅤ）  
全校生徒を対象に「車いすバスケットボール」  
についての体験授業を実施した。



- ① 期日 平成30年1月17日（水）5・6校時
- ② 場所 五霞町立五霞中学校体育館
- ③ 講師 栃木レイカーズ：増淵倫巳選手，三村龍選手，大森亜紀子選手，  
間下裕基選手，加藤政敬選手

- ④ 内容
- (ア)車いす体験
- (イ)車いすバスケットボール体験
- (ウ)デモンストレーション
- (エ)講演・応援メッセージ



6 主な成果

- (1) オリンピック・パラリンピック教育講演会（ⅠⅡⅣ）  
グローバルマナーとおもてなしの心を学ぶことで、自他を愛し、協力し  
合う心を育むことができた。

〈生徒の感想〉

- ・今まではそれが一番よいと思っていた対応が本当は悪いことだったり、  
もっとよい方法があると知ったりしてびっくりしました。また、外国人  
が握手やハグをすることが当たり前なのだと知ったので、外国人  
と交流するときにあったら学んだことを生かして相手がいい気持ちに  
なるおもてなしをしたいと思います。（中1女）
- ・人に物を渡す時には、目→物→目、を意識するとよいという話を聞いて  
すごいと思いました。また、ある人の一番は他の人の一番ではない、お  
もてなしの表し方は相手によって違うなど、相手に喜んでもらいたいと  
いう気持ちを大切にしていきたいと思いました。（中2女）
- ・礼の仕方、物の出し方など、細かいおもてなしでも大きく印象が変わる  
のだと思いました。先生の一つ一つの行動が落ち着いていて、見ている  
ととても素敵な人だなと思いました。オリンピック・パラリンピックな  
どで今回学んだことを活かしたら、たくさんの人が笑顔になれるのでは  
ないかと思いました。（中3女）



- (2) 茨城国体プレ大会ボランティア（ⅡⅤ）

トイレや給水所の位置、危険箇所の確認など、ウォーキングに必要な情  
報を記録し、運営関係者と情報交換することで、スポーツへの多様なかか  
わり方を体験させることができた。



(3) パラスポーツ体験授業（ⅡⅢⅤ）

パラスポーツの直接体験を通して、生徒に共生社会の形成に関する意識を高めさせることができた。また、講師の先生方が体験用車いすを14台準備してくださり、全校生徒並びに全職員が乗車体験をすることができた。さらに、アンケート結果では「パラスポーツに興味をもつことができましたか」という質問に対して、「はい」が154名、「いいえ」が5名、「別のパラスポーツを体験してみたいですか」という質問に対して「はい」が135名、「いいえ」が24名であった。この結果から、多くの生徒がパラスポーツへの興味や関心を高めたといえる。

〈生徒の感想〉

- ・テレビで見たことはありますが、生は迫力が違うなと思いました。乗ってみると操作が大変だなと思いました。選手が言っていた「自分と向き合って、強気に生活していく」を目標にして、私も勉強や部活をがんばりたいです。(中1女)
- ・競技用車いすに乗ってみて、とても運転が難しいなと思いました。講師の先生方のゲームはとてもかっこよく、すてきだなと思いました。物事を明るく前向きに考えることが人生をいい方向に変えていくということがわかりました。(中2女)
- ・パラスポーツはテレビなどで見ただけでした。実際に見たり、体験したりすることで、より興味をもつことができました。これからは、この体験を思い出してパラリンピックを見ようと思います。(中3男)



7 実践において工夫した点  
(事業の特色)

オリンピック・パラリンピック教育講演会とパラスポーツ体験授業では、全校生徒参加型の講演や体験活動を実施し、全員が心と体で知識や技術を身に付けられることに重きを置いた。また、生徒会による司会進行や代表生徒が活動を披露する機会を設けるなど、生徒の主体性や積極的な態度を大切にする場を設けた。

茨城国体プレ大会ボランティアでは、2019年の茨城国体で実際に使用するコースを歩き、参加者と主催者の両側の視点をもたせた。さらに、運営関係者や一般参加者等と意見交換することで、生徒に所属感や自分や他人の価値に気付く場を設けた。

8 主な課題等

講演会や体験授業の講師を依頼する際に、オリンピック・パラリンピック関連の選手やチームに直に連絡をとることが難しかった。

9 来年度以降の実施予定

今後は、スポーツを「ささえる」ことにおいて、生徒にスポーツボランティアについての専門的知識や技術を身に付けさせ、国体や東京オリンピック・パラリンピックなどに多様にかかわり、一人一人が豊かなスポーツライフを送っていけるように支援したい。

